

学校だより

NO. 451

1月7日



品 濃

〈横浜の教育がめざす人づくり〉

自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人

〈学校教育目標〉

夢や希望をもち、自らの生き方を追求する姿勢をはぐくみ、互いの良さを認め合いながら、ともに社会の創造に貢献しようとする態度を養います。

・知 生きて働く知 ・徳 豊かな心 ・体 健やかな体
・公 公共心と社会参画 ・開 未来を拓く志

横浜市立品濃小学校 電話 824-0651 FAX 826-2183

URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinano/>

「干支（えと）と十二支」

校長 坂井 暢

新年 明けまして おめでとうございます。

「今年の干支（えと）は寅（とら）」とつい言うてしまうが、本来、干支（えと）と十二支は同じ意味ではなく、十二支では寅（とら）、干支（えと）では壬寅（みずのえとら）ということになる。このように、干支（えと）とは、十干十二支（じっかんじゅうにし）を略した呼び名で、「十干（じっかん）」と十二支を組み合わせたものだそうだ。十干は、甲（こう：きのと）、乙（おつ：きのと）、丙（へい：ひのえ）、丁（てい：ひのと）、戊（ぼ：つちのえ）、己（き：つちのと）、庚（こう：かのえ）、辛（しん：かのと）、壬（じん：にずのえ）、癸（き：みずのと）の総称で、もともとはものを数えるための言葉であった。十干と十二支は、いずれも毎年一つずつずれていくので、最小公倍数の60で組み合わせが一周することになる。ですから、60歳になることを還暦といい、ちょうど自分が生まれた干支に戻ることを祝うのである。甲子園球場は1924年の甲子（きのえね）の年に完成したことが名前の由来となっている。ということで、十干十二支でいうと今年の壬寅（みずのえとら）となる。ちなみに、去年は「辛丑（かのとうし）」。

この十二支や十干は、数や方角だけでなく、それぞれ独自の意味を持っている。「壬」がもつのは第9位の他、女性の妊娠の任の一部から「生まれる」という意味を持ち、「寅」は「演」が由来で「人の前に立つ」、また、演と同じ読み「延（えん）」から「延ばす・成長する」という意味を持っている。この2つの組み合わせである壬寅は「新しく立ち上がること」「生まれたものが成長すること」といった縁起の良い意味を持っているようだ。

オミクロン株による感染の急拡大の様相を呈してきて、いよいよ第6波到来かと不安な気持ちになる。壬寅（みずのえとら）の意の通り、コロナ禍を乗り越え、子どもたちの成長にとってできるだけ良い環境を創ってあげたいと思う。

子供たちはこうして生きかたを学びます

アメリカンインディアンの教え

批判ばかり受けて育った子は非難ばかりします
敵意にみちた中で育った子はだれとでも戦います
ひやかしを受けて育った子ははにかみ屋になります
ねたみを受けて育った子はいつも悪いことをしているような気持ちになります
心が寛大な人の中で育った子はがまん強くなります
はげましを受けて育った子は自信を持ちます
ほめられる中で育った子はいつも感謝することを知ります
公明正大な中で育った子は正義心を持ちます
思いやりのある中で育った子は信仰心を持ちます
人に認めてもらえる中で育った子は自分を大事にします
仲間の愛の中で育った子は世界に愛を見つけます

